Best Shop Bs-Summit BSサミット

発行所
BSサミット事業協同組合 広報委員会
〒104-0031 東京都中央区京橋3-9-4 新京橋ビル3F TEL:03-3538-2900
www.bs-summit.jp

BSサミットニュース

Vol. 44

BS Summit NEWS vol.44 2020.9.30

BSサミットニュース TOPICS

BSサミット オートバックスセブンと包括業務提携を締結 ―― 1面
FAINES(ファイネス)を使いこなすことで目指す効率化 ―― 3面
知っておこう自動車豆知識〈リコール制度〉 ―― 5面
BS TECHNICAL 台頭するハンズオフ機能搭載車の解説とその整備 ―― 6面
ストップ粗悪修理(不完全修理事例) ―― 7面
組合員訪問 / クルマのわかつき(福島支部) ―― 8面

包括業務提携契約を締結

BSサミット事業協同組合
株式会社オートバックスセブン

2020年8月20日、BSサミット事業協同組合は、カー用品店最大手チェーンとして「オートバックス」や「スーパーオートバックス」等を運営、またはフランチャイズ展開している株式会社オートバックスセブンと、次世代技術に対応する整備ネットワークの構築に向けた業務提携を締結しました。今号では包括業務提携の詳細及び具体的なイメージについてご説明致します。



包括業務提携契約を締結し握手を交わす小林社長(左)と磯部理事長(右)

オートアフターマーケット連絡協議会から生まれた提携

まずは、BSサミットとオートバックスセブンの包括業務提携に至った経緯を説明するのに欠かせないのが、2012年3月に発足し磯部理事長が初代会長を務めた「オートアフターマーケット連絡協議会」です。創設以来、〝新しいアフターマーケットの創造〟をテーマに定期的な情報交換を行なっている中で、お互いの課題を補完しあえるのではないかと感じたことをきっかけとし「顧客の利便性を追求するという方向性で一致したことが実現のポイント」だと磯部理事長は話します。そして、今年4月より特定整備認証制度が導入されたことをトリガーに業界を取り巻く様々なものが変わるこのタイミングで、具体的な事例と共に業務提携の締結が進んでいきました。

目的は「ユーザーの利便性向上」と「マーケットの活性化」

今回の包括業務提携は「全国約600店舗のFCチェーンであるオートバックスの認知度と車検64万台を誇る集客力」と「車体整備業界のリーディング組織であるBSサミットの次世代自動車に対応した修理技術や設備」が鍵となります。これらのリソースを連携させることで、オートバックス店舗にとっては〝ユーザーへのサービス提供の質を高める〟ことに繋がり、BSサミット組合員工場にとっては〝集客の新たなチャネル〟となり得ます。また、今回の提携はエクスクルーシブなものではなく各地域にあった最適な連携を模索することで、よりユーザーの利便性向上に繋がるものと考えており、ひいては自動車アフターマーケットの活性化に寄与することを目的としております。



オートバックスセブンの描く「整備ネットワーク」のイメージ

地域における整備ネットワーク構築を目指す

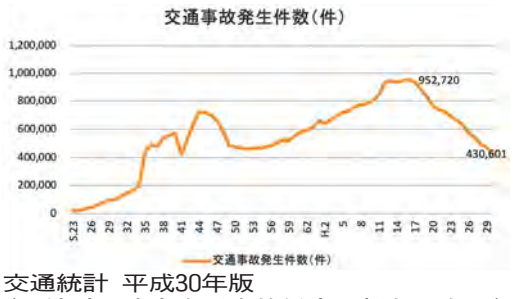
オートバックスセブンは、2019年5月に発表した〝5ヵ年ローリングプラン2019〟で、次世代技術に対する整備ネットワークの構築を掲げており、「新しいクルマの整備を担うインフラを一緒に構築していきたい」と地域に根ざす整備事業者とアライアンスを組んで取り組む方針を明らかにされました。この様な背景のなか、福岡・東北・東京などでは具体的なネットワーク構築に向けた話し合いが始まっており、BSサミット組合員工場にも声が掛かっております。この提携により各本部が手を取り合うことで、全国各地での整備ネットワーク構築を加速度的に進めていくことを目指します。

オートバックスセブンの小林社長は「指定工場店舗423店舗すべてにおいて2021年9月を目処に特定整備認証の取得を目指すが、認証を取得したからといって全ての車種のすべてのエーミングを行うことは現実的ではない。だからこそ各地域でネットワークを構築することでユーザーの利便性を上げていきたい。また、車体整備やロードサービスなど、これまで一部店舗でしか行っていないサービスについても、すでに実績のある地域の事業者と組むことでスピーディにお客様の利便性を上げていきたい」と、今回の提携について話されました。

次世代自動車時代の到来により進む〝業界再編〟

背景にあるのはやはり「次世代自動車時代の到来」です。その影響で今後、車体整備業界は生き残りを懸けた競争が激化することは火を見るより明らかです。なぜなら、先進安全自動車(ASV)の普及により交通事故は減少傾向にあり(グラフ1:交通事故発生件数)、一方で損害保険料率算出機構の発表によると、事故車修理の高度化が進み保険事故一件あたりの修理費は年々増加傾向にあると言います。そこに、今年4月の特定整備認証制度スタート、来年11月には新点検基準の施行、2024年にはOBD車検と、自動運転時代に向けた法整備が進みます。つまり、修理するクルマは減り続けるが、高度化する修理への対応と法令を遵守するためには新たな設備投資が必要不可欠なのです。

BSサミットはこれらの現実にいち早く向き合い対策を講じてきました。今回、オートバックスセブンのパートナーとして選出されたのはその成果だと感じております。今後は、オートバックスセブンだけでなく、損害保険会社もディーラーも〝新たな基準〟で整備工場を選出するようになってくると思いますが、その際に真っ先にBSサミットの名前が挙がるよう、今後も〝挑戦を続ける実践集団〟として取り組んでまいります。



交通統計 平成30年版
(公益財団法人交通事故総合分析センター)



オートアフターマーケット連絡協議会

新たなビジネスモデルの展開・発信へ

――重要度増す連携と業界動向のキャッチアップ――


代表理事として挨拶する藤野副理事長


提携の意義を話すオートバックスセブンの小林社長

8月26日（水）、オートバックスセブン2階会議室（東京都江東区豊洲5-6-52NBF豊洲キャナルフロント）にて「オートアフターマーケット連絡協議会」の2020年度第2回定例会が開催されました。

同協議会は、自動車アフターマーケットに関わる幅広い事業者の情報交流の場を創出し、それぞれのビジネスの拡大や発展に向けた議論を行い、自動車ユーザーの便益拡大に寄与する活動を通じて社会に貢献することを目的に、2012年に発足。現在はBSサミット事業協同組合、全日本ロータス同友会、株式会社オートバックスセブンを始め、自動車アフターマーケットの各業界団体など17社が会員として名を連ねています。なお、5月に行われた同協議会の総会でBSサミットの藤野副理事長が代表理事に選任されています。

2020年度 第2回定例会 開催

定例会では、同協議会が今年度推進する3つのプロジェクトの紹介と株式会社イード・レスポンス編集人の三浦和也氏より、今後のクルマの運用において様々な可能性を秘めている「バーチャルキー」についてのプレゼンテーション、新規会員2団体の紹介および現状の取り組み発表が行われたほか、各会員から最新状況と動向の情報交換が行われました。

藤野副理事長は、BSサミットの報告で、8月1日より稼働となったBSサミットエビデンスシステムについて触れ「このシステムは業界内へ広く浸透するように、制限無く使用頂くことが可能となっているので、ご興味のある企業・団体様はご連絡頂ければと思います」と同システムを

アフターマーケット業界活性化へ
コロナ禍の先を見据えた展開の重要性

PRしたほか、次世代技術に対応する整備ネットワーク構築の一環として、オートバックスセブンとの包括業務提携（提携の詳細は1面参照）にも言及しました。

一般社団法人自動車用品小売業協会（APARA）会長として出席していた、オートバックスセブンの小林喜夫巳社長も「今までの枠の中でやっていると、お客様の不便が増えていきます。連絡協議会会員の皆様とお客様の利便性を考えながら、お客様の車の利用拡大を考えていく事が大切です。その一つの表れとして、BSサミット様と地域で連携を図っていくことが重要であるという結論になりました」と述べ、提携の重要性が改めて示されました。

BSとオートバックス
提携のきっかけは“連絡協議会”


オンライン参加も含め、3密回避で行われた会議の様子

藤野副理事長は「先頃発表した、我々BSサミットとオートバックスさんの提携は、この協議会がきっかけになったと言っても過言ではありません。今後もこの場を通じて様々な連携やビジネスの展開ができると確信をしております。引き続き各団体の皆様からの積極的な情報発信と共有をお願い致します」と挨拶し、同協議会発のさらなるビジネスモデルの創出に期待を寄せました。

オートアフターマーケット仙台／九州　10月開催




仙台会場に登壇する奥田孝之氏（奥田自動車有限会社）


九州会場に登壇する田中俊明氏（株式会社カーポートタナカ）

今年４月から、自動車整備の新たな制度「特定整備」が施行され、衝突被害軽減ブレーキ（自動ブレーキ）などに使用されるカメラやレーダーなどの監視装置のエーミング作業に関する新たなルールが既にスタートしています。対象車両ではガラスやバンパーの脱着なども対象作業に含まれ、各種作業で脱着を伴う場合は事業者にて適切な対応が求められています。この制度がスタートしたものの、まだ事例も少なくコロナ禍の影響も相まり、機材や知識など制度に対応する上での「適切な情報」が十分でないのも現状の課題としてあげられます。

自動ブレーキやＡＣＣ搭載車両が増えるなど自動車の進化は著しく、保有マーケットを対象にした自動車整備事業にも影響を及ぼしています。従来のような拡大が見込みにくい市場背景の中で、自動車特定整備認証などの制度変更もはじまり、自動車アフターマーケット事業者にとっては先行きが見えないビジネス環境になっていると言わざるを得ません。

そのような中で、自動車特定整備・エーミングを主軸とし、地域に根ざした幅広い自動車アフターマーケット関連事業者を対象にした情報提供の場として、特定整備にどう対応すべきかを理解できるイベントが、10月に仙台と福岡でそれぞれ開催されます。

「オートアフターマーケット仙台2020」は10月２・３日、「オートアフターマーケット九州2020」は10月10・11日のそれぞれ２日間で開催され、各種展示ブースと特定整備を多面的な角度から解説するセミナーやエーミング作業の実演など、直接触れて見て特定整備を理解できる各種プログラムが予定されています。

両会場でそれぞれ最終日に開催される「これからの自動車整備業界を考える」をテーマにしたパネルディスカッションに、ＢＳサミットから、東北ブロック宮城山形支部の奥田 孝之氏（奥田自動車有限会社・代表取締役）と、九州ブロック担当理事　田中 俊明氏（株式会社カーポートタナカ・代表取締役）がそれぞれパネラーとして登壇され、これからの自動車整備業界を勝ち残っていくために、どのような準備を進めるべきかについて議論が行われます。

少子高齢化などによる社会構造の変化や、環境や安全面からさらに進む自動車の進化など、法定需要に守られた自動車整備も、特定整備の認証から特定ＯＢＤを活用した車検制度へと変わって行かざるを得ない背景の中で、今後の自動車整備事業者としてのあるべき姿が浮き彫りとなります。



特定整備対応、エーミング、ガラスなど「自動車整備の再定義」がはじまる

開催概要

名称：「オートアフターマーケット仙台2020」
日時：10月２日（金）・３日（土）10：00～17：00
（最終日16：00まで）
会場：アズテックミュージアム仙台産業展示館
宮城県仙台市太白区中田町杉の下18

名称：「オートアフターマーケット九州2020」
日時：10月10日（土）・11日（日）10：00～17：00
（最終日16：00まで）
会場：地場産くるめ（公益財団法人久留米地域地場産業振興センター）
福岡県久留米市東合川5-8-5





FAINESを使いこなすことで目指す効率化

次世代自動車の修理に整備マニュアルは欠かせない

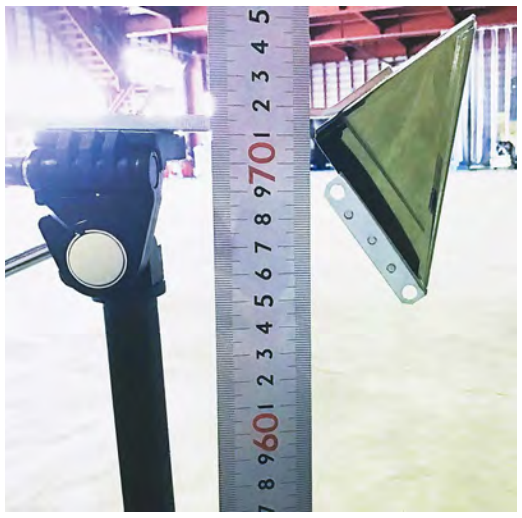
以前は〝経験〟や〝勘〟を駆使することで修理が可能だった自動車ですが、次世代自動車が普及し電子制御化が進んだことにより、自動車メーカーが発行する整備マニュアル情報が、修理・整備に欠かすことのできないツールになりました。そこで注目度が増しているのが、一般社団法人日本自動車整備振興会連合会（JASPA・日整連）が提供するインターネットを活用した整備情報提供システム「FAINES（ファイネス）」です。

今年4月に次世代自動車研究委員会がBSサミット組合員工場を対象に行ったアンケート調査によると、〝新車情報の検索〟、〝エーミング調整・DTC（ダイアグトラブルコード）に関する検索〟などを目的にすでに多くの組合員工場がファイネスを活用しており、検索時間の短縮を目的とする研修の早期実現を望む声が聞かれます。ファイネスにも改善すべき問題点は多々ありますが、ファイネスの活用は次世代車整備に不可欠であり、国土交通省からも自動車メーカーからの情報はファイネスを通して提供するとの指針も発表されておりますので、BSサミットとしては早急に対応すべき事案として研修プログラムの準備をしております。

次世代自動車時代に求められる情報検索力

ファイネスが、自動車メーカー各社の整備マニュアル情報を一括して管理してくれる非常に便利なシステムであることは間違いありません。しかし一方で、自動車メーカー各社の情報を横断して閲覧しなくてはいけない我々独立系整備工場にとっては、メーカーごとに修理書の見方が異なり使いこなせなければ欲しい情報にたどり着くまでに時間が掛かってしまうという課題があります。

今後、特定整備の対象車両が増えていき、来年10月には「新点検基準」が施行され、定期点検の項目にOBDの診断結果が追加、警告灯が点灯している場合はスキャンツールを使用した整備が必要となります。つまり、従来の〝経験〟や〝勘〟が重視されてきた整備から、電子ツールを使用した情報検索力が問われる整備へとシフトする過渡期なのです。稀に「各メーカーは情報の出し方を統一すべきだ」とか「日整連はもっと情報を見やすく整理すべきだ」などという意見を耳にすることもありますが、そんな〝べき論〟をかざしても現実的ではありません。この課題を早急に克服するためには、マニュアル化とトレーニングが必要不可欠です。



整備マニュアルに則ったターゲットの設置が必須

現場、フロント、双方のファイネス活用が重要

また、ファイネスは現場の作業者だけが活用するものではありません。実際にお客様の応対をするフロントマンもまた、「部品（バンパーやFガラス等）を交換・脱着した際に付帯作業（エーミング等）は発生しないのかどうか？」「付帯作業（エーミング等）が発生した場合のその作業手順」など、必要な情報を得るために活用が必要です。特定整備時代のフロントマンは、〝お客様の車の持つ安全機能と修理過程でどのようなエーミングが必要かを説明し理解を得る〟ということまではない新たな業務を持ちます。BSサミットでは今期、〝フロントマンの次世代自動車技術の理解〟を目的とした研修を行います。その中で重要な課題の一つがファイネスの活用であり、重点的に研修を行う予定でございます。



最近の自動車は電子制御化が進む

車体整備における「診断業務」の重要性

多種多様のカメラやセンサーを備えた車の修理を行うためには、先にあげた〝ファイネス診断〟、〝スキャンツールを使った診断〟だけでなく、「車体の計測」、「エーミング」など、これまでには無かった診断業務が多く存在致します。診断の結果に基づき適切な修理を行わなければ、見た目は元通りだとしても、その車が本来持つ機能までは修復できていない可能性が高く、不幸な事故を引き起こしかねません。そのようなことにならないよう、我々BSサミットメンバーは診断能力を高めるよう努めてまいりますので、修理・整備をご依頼くださる皆様におかれましても〝診断業務〟についてご理解くださいますようお願い致します。

知っておこう自動車豆知識

～FAINES（ファイネス）とは～

このコーナーでは、車に関する基礎知識を分かりやすく解説します。プロの方も「いまさらこんなこと質問できない」って場面もよくあるはず。このコーナーでこっそり知識を身につけましょう！



ファイネスは、一般社団法人 日本自動車整備振興会連合会（日整連）が提供するインターネットを活用した整備情報公開システムです。整備マニュアル情報をはじめ、故障整備事例、新型車・新機構の紹介、回路図、点検基準値、標準作業点数など、自動車整備・修理に不可欠なさまざまな情報が掲載されています。

閲覧には会員登録が必要であり、整備振興会に所属する事業者であれば会員価格での利用が可能で、整備振興会に所属していない事業者でも日整連が定める自動車関連の団体に所属しているなど、条件をクリアすれば会員外料金でファイネスを利用可能です。

整備マニュアルなどの情報は、ファイネスを通じなくても入手は可能ではあるものの、一整備工場が自動車メーカーを横断して全車種のマニュアルを入手するのは、費用面であまりにも現実的ではありません。そのため、全国に約９万の加盟自動車整備工場を持つ日整連が、各自動車メーカーとの間に立ち「情報の収集」及び「加盟工場に向けた公開」を行なっています。

移動の進化で社会を変える。
クルマユーザーの皆さまの声に耳を傾け続けた経験と実績を活かし、
価値観を変える新たなモビリティサービスを生み出すことで
自由な移動の可能性を広げ、豊かな未来を創造します。
Mobility Service

2020年4月1日にSMASフリートは、
住友三井オートサービスと
合併いたしました。
引き続き変わらぬご愛顧賜わりますよう、
お願いいたします。

住友三井オートサービス

住友三井オートサービス株式会社
首都圏ネットワーク営業第二部
〒163-1434 新宿区西新宿3-20-2　東京オペラシティビル
TEL:03-5365-2170
https://www.smauto.co.jp/

BSサミット組合員工場



予期せぬ出来事への対応を強化！

激しい風雨が猛威を振るい、全国で2人が死亡、4人が安否不明となったほか、九州を中心に100人超が重軽傷を負った「令和2年台風10号」は記憶に新しいと思います。その他にも、7月3日以降に熊本県を中心に九州や中部地方など日本各地で発生した集中豪雨「令和2年7月豪雨」、2019年10月、関東地方や甲信地方、東北地方で記録的な大雨となり、甚大な被害をもたらした「令和元年東日本台風」、2019年9月に発生した関東上陸時の勢力では過去最強クラスの台風「令和元年房総半島台風」など、ここ数年、全国各地で大規模な自然災害が相次いでいます。

このような状況の中、BSサミット事業協同組合では、自然災害や事故などで万一の際に整備受託車両や自社の設備が被害を受けた際の備えを万全にすることを目的に、全組合員に対して「受託自動車保険」「PL（生産物賠償責任）保険」「管理者賠償責任保険」への加入を促しました。受託自動車保険は、整備工場においてお客様から整備・修理・点検等のために受託した自動車について、受託している間の使用・管理中の事故による損害または傷害（対人・対物事故、搭乗者のケガ等）に対する保険。PL（生産物賠償責任）保険は、受託車に対する整備、修理、点検等に欠陥があり、納車後に他人（お客様も含む）が身体障害や財物損害を被った場合、または整備を終えた受託車自体を損壊させた場合の保険。管理者賠償責任保険は、駐車場管理者、自動車整備工場など、自動車を預かることを業としている者が、自動車をキズつけたり、盗難にあったりして返せなくなった場合などに自動車の持ち主に対して負う賠償責任をカバーする保険。この保険に「火災保険水災保険特約」を追加することで、自然災害によってお客様のお車が損壊した場合にも保険対応が可能となります。



九州北部豪雨の爪痕

磯部理事長は取材に対して「ここ数年、全国各地で大規模な自然災害が起こっており、国内では今後どの地域に同じような被害が出ても不思議ではない。消費者にとっては何かあった時の保障がない整備工場に安心して車を預けようという気持ちにはならないはずだ。他社では手掛けていない取り組みを実施するのがBSサミットの存在意義だ」と話します。

BSサミットでは、厳しい設備基準を設け新時代の車体整備事業者に相応しい工場運営を求めているが、今回の試みもその一環で、本部としては費用を負担しておりません。それにも関わらず、全社が納得をし、加入が実現したことこそBSサミットの真価だと思っております。皆様におかれましては、今後も安心してお車をお預けください。

業界動向ニュース

自社で「すること」と他社に「任せること」

確実に訪れる未来をどう捉えるべきか？



〝2050年までに地球の平均気温が3℃上昇し文明が崩壊する〟という恐ろしいシナリオが指摘されたレポートに関するニュースを読みました。レポートによると「最悪のシナリオでは、35％の陸地、55％の人口が、人類が生存不可能なほどの灼熱に年間20日以上晒されるようになる上、サンゴ礁、アマゾンの熱帯雨林、北極大陸といった生態系が崩壊。それにより、北米では山火事、熱波、干ばつに苦しむようになる。アジアでは巨大河川の水量が激減し、2億人が影響を受け、メキシコや中米では降雨量が半減し、農業が不可能になるだけでなく、半恒常的なエルニーニョ現象が発生し、致死的な熱波が年間100日以上続くことで100億人が土地を追われる」ということだそうです。

何が言いたいかというと、人類滅亡の危機を回避するためには、この先10年でCO₂排出量ゼロの工業システムを構築し、安全な気候の修復に世界規模で取り組まなければならず、この背景の元に、EUでは21年から「CAFE規制」と呼ばれる自動車向けの排ガス規制が本格施行されるということです。つまりEVやHVへの移行は今後益々加速することを意味しますし、それは〝売れる〟とか〝売れない〟という目先の損得勘定ですらない、抗えない事実なのです。来たるべき未来が見えている中で、デーラーが変わり、部品メーカーが変わり、地域部品商が変わった先に、我々整備工場にどんな影響があるのかを考える良い機会ではないでしょうか。



誤解を恐れずに言うと特定整備認証は「外注先の見直し」を引き起こすきっかけとなるでしょう。今回のオートバックスセブンとの包括業務提携が良い例ですね。

自動車ディーラーの立場になって考えてみてください。車体整備もガラス交換も外注に頼ってきたディーラーであれば、センサーやカメラなどが搭載された車両のバンパ・グリルとフロントガラスの脱着が整備作業になり、元請けとして整備責任が発生するのですから外注先の作業品質を確認して、体制を見直すのはコンプライアンスの観点からも当たり前だと思います。また、パターン3の特定整備認証（従来の分解整備＋電子制御装置整備）を取得した（する）整備事業者であったとしても、エーミングは自動車メーカーが定めた作業内容で行う必要がありますから、すべての車両のエーミングに対応するというのは現実的ではなく、自社で行わない作業については外注先を探すこととなるでしょう。

一方で、受注する側となり得る車体整備事業者もまた、特定整備に係る前方のエーミングだけでなく、後方や全方位などあらゆるエーミングに対応するのは難しいのが現実であり、自社でできることを正確にステークホルダーにアピールする必要があります。

発注する側も受託する側も自社で「すること」と他社に「任せること」を明確にしていきましょう。発注する側は、外注先の対応車両を理解していなければ適切な作業外注が難しくなりますし、自社で出来ることをアピールすることは、新たな外注先の獲得に直結する重要な役割を果たすでしょう。

常温速乾・特化則対応
Autoclear Aerodry
好評発売中！
オートクリヤー エアロドライ
選択可能な乾燥方法によって
最大限の生産性と収益を実現
60℃なら5分で硬化
20℃でも約45分で硬化
フラッシュオフタイムは不要
アクゾノーベルコーティング株式会社　東京都国立市泉4-8-7 TEL.042-843-0081　https://www.sikkensvr.com/jp
CREATING TOGETHER
sikkens
AkzoNobel



“明日をひらく”デンゲンの技術
DENGEN
POE PAG
電動・一般用コンプレッサーオイル対応!!
HFO-1234yf
HFC-134a 兼用型
Brain Max
アルザス・プロ
AZUS PRO
全自動
フロンガス回収機
アイドリングストップ
MF/シール、標準他
各種バッテリー完全対応
充電器
超高張、ボロン他
すべてに対応!
D.Cインバータースポット溶接機
CS-YF134WS（2タンク型）
BR-MAX70iS
SW-VZ120

知っておこう自動車豆知識

～リコール制度～

　このコーナーでは、車に関する基礎知識を分かりやすく解説します。プロの方も「いまさらこんなこと質問できない」って場面もよくあるはず。このコーナーでこっそり知識を身につけましょう！

　よくニュースや新聞などで見かける「リコール」。車に乗られている方なら、一度は耳にしたり、案内ハガキを受け取ったという経験があるのではないでしょうか？
　生活用製品や健康食品・医薬品などリコールの対象は多岐にわたりますが、今回は、道路運送車両法に基づく「自動車のリコール制度」についての理解を深め、その知識を広げましょう。





リコール制度とは？

　そもそもリコール制度とは、設計・製造過程に問題があったために、自動車メーカーが自らの判断により、国土交通大臣に事前届出を行った上で回収・修理を行い、事故・トラブルを未然に防止する制度です。事故やトラブルを未然に防止し、自動車に乗る私たちを保護することを目的とするもので、自動車が道路運送車両の保安基準（自動車に安全に乗るための法律）に適合しなくなるおそれがある状態、又は適合していない状態で、原因が設計又は製作の過程にある場合に、その旨を国土交通省に届け出て自動車等を無料で修理する制度です。国土交通省は、リコール届出の過程において、以下のような役割を担っています。

○不具合情報の収集・分析
○メーカーのリコールへの取組状況の調査
○取組状況が不適切であれば指導又は監査等
○届出内容が不適切であれば改善指示
○メーカーが自主的にリコールを行わず、事故が頻発している場合に勧告・命令

　なお、リコール制度には「法令に基づくリコール」と「製造者・販売者による自主的なリコール」とに大別されており、「リコール」の他に「改善対策」や「サービスキャンペーン」などの案内もあります。

改善対策とは？

　改善対策とは、自動車等が道路運送車両の保安基準に不適合状態ではありませんが、安全上又は公害防止上放置できなくなるおそれがある、またはできないと判断される場合で、原因が設計または製作の過程にある場合において修理する制度で、不具合が発生した場合に安全の確保及び環境の保全上看過できない状態となりますので、放置すると危険です。

　リコール・改善対策の場合は、安全確保の観点などから修理を必ず受けるようにしましょう。なお、道路運送車両法では、自動車ユーザーにもご自分の自動車が保安基準に適合するよう点検・整備する義務があります。この点からも、修理を受ける必要があります。



定期的に不具合情報を調べることも大事


本田技研がタカタ製エアバッグの不具合調査を全世界で行った

サービスキャンペーンとは？

　サービスキャンペーンとは、リコールや改善対策に該当しないような不具合で、商品性・品質の改善措置を行うことを指します。そのままにしておくと車体に不具合など出る恐れもありますので、強制的なものではありませんが必ず受けるようにしましょう。

自分の車が対象車かどうか確認するには？

　リコールなどの対象車には、国土交通省やディーラーから所有者の元へと通知書が届きます。その他、国交省の「不具合情報検索」や各メーカーのホームページでも車名や型式車体番号などを入力することにより自分の車が対象車かどうかを確認することもできます。また、メーカーから国交省へリコールの届出があった場合は、国交省がプレスリリースを行うとともに、Twitterでも情報発信を行っています。その他、ユーザーから寄せられた故障やトラブル等の不具合情報を元にリコール等を実施する場合がありますので、もしも公開されているリコール情報とは別の不具合情報がある場合は、国交省ホームページに記載の「自動車の不具合情報ホットライン」から、不具合情報を届け出るようにしましょう。

　なお、リコール等の通知書は一度しか届きませんので、中古車などを購入された場合は、その車がリコールの対象になっていないかどうかを確認することが大切です。リコールには有効期限がありませんので、対象であった場合は早めに処置を受けるようにしましょう。

　以上、リコール・改善対策・サービスキャンペーンの違いはお分かりいただけましたか？リコールは受けないと重大な事故やトラブルへと繋がります。無償で受けれる制度なので必ず受けるようにしましょう。なお、近くの整備工場でもリコールの対象車についての確認ができますので、ご不明な方はぜひお問い合わせください。

　今後も本コーナーでは自動車に関する「豆知識」を紹介いたしますので、次号もお楽しみに！



国交省の「不具合情報ホットライン」



BS TECHNICAL
最新自動車技術・事故車修理

第7回
台頭するハンズオフ機能搭載車の解説とその整備

「プロパイロット2.0」のおさらい

2019年秋に登場した日産自動車の「プロパイロット2.0」は高速道路や自動車専用道路上を走行する一定の条件下においてハンドルから手を離して運転できるハンズオフ機能を加え、自動運転の実現に向けた新たな一歩を踏み出しました。自動運転レベル3は「特定条件下においてシステムが運転を実施」と規定され、その条件に外れたケースやシステムの作動継続が困難な場合、ドライバーが運転を引き継ぐことになっています。ハンズオフに加え、車線変更と追い越し、高速道路などの出口の誘導を行う「プロパイロット2.0」の自動運転はまだ断片的な機能に留まっており、自動運転レベルの定義に照らせば、レベル2.5といったところでしょうか。



「プロパイロット2.0」の運転シーン。フロントガラスに投影されたヘッドアップディスプレイに車線変更の提案が表示されます。

新世代「アイサイトX」でハンズオフを実現

こうした中、SUBARUは同社の先進安全技術「アイサイト」を刷新、10月15日に発表する新型レヴォーグに実装する旨を発表しました。この新世代「アイサイト」の名称は「アイサイトX」とし、広角化した新型ステレオカメラとレーダーを採用することで、ハンズオフなどの機能を追加しました。なお、「アイサイト」でレーダーが用いられるのは初めてのことです。


新世代「アイサイトX」を搭載した新型レヴォーグ。新開発のステレオカメラと前後4箇所にレーダーが装備されました。

新型レヴォーグのハンズオフ機能は「ハンズオフアシスト」と呼ばれ、50km/h以下の速度で作動、主に渋滞時のシーンでの使用が想定されています。もちろん、アイサイトのシステムでは初めての機能です。

この他、「アイサイトX」では料金所前速度制御（25km/h程度まで自動減速）、渋滞時の自動再発進機能などの機能も備えられています。従来の「アイサイトVer.3」と比較し、アクセル、ブレーキ、ステアリング操作の運転支援領域を拡大させているのが大きな特徴です。


写真左は「アイサイトX」の360度センシングイメージ。写真右はハンズオフのイメージ。



渋滞中、クルマが停止した際の再発進はドライバー操作を必要としません。

新型LSは自動運転レベル3か

トヨタは7月7日、LEXUSの新型「LS」を世界初公開しました。注目は何といっても高度運転支援技術の「Lexus Teammate（レクサス チームメイト）」の採用です。高速道路などの自動車専用道路での運転において、ドライバー監視のもと、車載のシステムが実際の交通状況を適切に認知し、車線・車間維持、分岐、レーンチェンジ、追い越しといった操作を支援するというものです。トヨタは新型LSについて、「ドライバーはアクセル、ブレーキそしてハンドル操作からも解放され、長時間の運転における疲労の軽減が可能」と発表しているため、自動運転レベル3のクルマとも噂されています。新型LSの発売は2020年初冬です。


新型LSにはミリ波レーダーの他にLiDAR（ライダー）と呼ばれるセンサが採用される予定です。


検知性能を維持するため、センサを洗浄するウォッシャーが装備されています。

ハンズオフ搭載に必須のドライバー監視システム

ハンズオフ機能が搭載されたADASシステムの特徴としてドライバーの状態を監視するモニタシステムの装備が挙げられます。ハンズオフの状態でのドライビングでも、ドライバーは常に前方に注意しながら、状況に応じてハンドル操作できる状態でなければ、ハンズオフによる運転はできないからです。これは、自動運転レベル3においても同様です。自動運転に求められる条件から外れた場合、運転はシステムからドライバーに移譲されますが、その状況を監視しているのがドライバーの監視システムです。ADASシステムには様々なセンシングデバイスが装備されてきましたが、システムが高度化し、自動運転のレベルが上がるにつれ、センサはドライバーのモニタリングにも拡大してきたといえます。


新型レヴォーグに搭載されるドライバーモニタリングシステム。


スカイラインに搭載されたドライバーモニターシステム。

ドライバー監視システムのキャリブレーション

ドライバー監視システムはモニターカメラの取り外し、或いはインストルメントパネルASSYを取り外した際にキャリブレーションを実施する必要があります。実施しない場合、システムそのものが作動しないケースや車線維持機能などの各運転支援機能が正常に作動しません。今後、ハンズオフ機能を備えたクルマが増加するにつれ、キャリブレーション作業が求められることが多くなるかもしれません。なお、スカイライン（V37）に搭載されたドライバー監視システムのキャリブレーション作業は以下の通りです。

■ スカイライン（V37）のキャリブレーション実施前の準備

- 運転席のドアを閉め、運転席側ガラスを全開にする。
- サンバイザーを閉じる。
- ドライバーモニタカメラの半径1.2 mに立ち入らず、物も置かない。
- 運転席、及びその後席は乗車しない。
- シートポジションを一番後ろにする。
- CONSULT（スキャンツール）は助手席から接続する。
- ステアリングを再下端にする。

■ スカイライン（V37）キャリブレーション実施

CONSULTを使用する。

1. キースイッチをONにする。
2. “ドライバーモニタカメラ”の“作業サポート”を選択する。
3. “ドライバーモニタカメラキャリブレーション”を選択する。
4. “開始”を選択する。
   “完了”が表示されたらYES>>を選択する。
5. 作業終了

※画像出典：SUBARU Media Site/SUBARUホームページ / 日産 グローバル

月別リサイクルパーツ別実績　2020年7月～2020年8月(全国)

内訳	2020年 7月 数量	2020年 8月 数量	合計 数量
フロントバンパー	423	424	847
リアバンパー	290	269	559
ヘッドライト	528	554	1,082
ボンネット	179	184	363
フェンダー	407	423	830
ドア	742	645	1,387
トランクリッド･リアーゲート	197	231	428
テールランプ	389	358	747
その他※	2,982	2,966	5,948
合計	6,137	6,054	12,191

※その他＝エンジン・ミッション・ラジエター・コンデンサー・コンプレッサー・フロントガラス等のリサイクルパーツ（新品パーツは除く）

BSサミット　販売促進委員会

リサイクルパーツ普及拡大に向けて

リサイクルパーツ普及拡大に向けたキャンペーン実施中！

事故車修理時のコスト低減は、損害保険会社やユーザーにとっても、ますますニーズが高まっております。ＢＳサミットでは、環境負荷低減とともに、こうしたコスト削減に寄与することを目的として、販売促進委員会を組織し、自動車補修部品のリサイクル促進を進めています。今後とも積極的なリサイクルパーツの活用をよろしくお願いします。

日本では、毎年300万台の車が廃車となっています。この膨大な廃車を廃棄物ではなく、再生資源として生かしていくことが重要です。自動車に関わる仕事をする以上、環境保全への取り組みは必要不可欠です。ＢＳサミットニュース43号「販売促進委員会の発表」でお伝えした通り、昨年に引き続きリサイクルパーツ普及拡大に向けたキャンペーンを実施しております。この機会にぜひ積極的なリサイクル部品の活用をお願い致します。

ストップ！粗悪修理!!

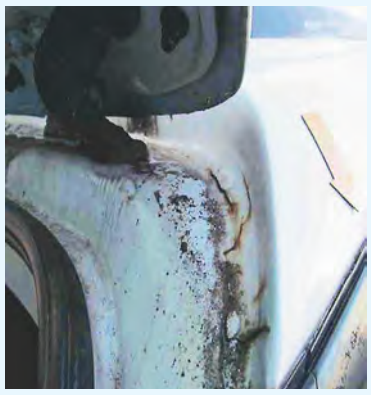
「ストップ粗悪修理」は、次世代自動車研究委員会や広報委員会を中心に収集している他社工場での粗悪修理情報を、ＢＳサミットニュースやカーケアプラスなどのメディアを通じて公開しております。

不具合車両の撲滅とユーザーへ安心と安全を提供すべく、本来あってはならない修理不具合・不正修理の現状・実態を明らかにし、適切な修理を行うことの重要性を呼びかけております。今後とも主旨をご理解いただき「修理不具合情報」のご提供をよろしくお願いいたします。

不完全修理例①　フードレッジパネルの車体寸法があっておらず不完全な修復！

写真の様にフロントフェンダーは取付け穴を広げて取り付けられている。フェンダー取付け部であるフードレッジパネルの車体寸法が正規寸法となってないのが原因だと思われる。このように完全修復されてないケースは、事故歴のある車の典型的な事例である。写真を見る限り至る所に錆がでており修理品質は最悪である。車体修理作業時の防錆作業も不十分であり。車体整備業者の良心を疑う内容である。





不完全修理例②　リアバンパーで隠れることを利用して不正修理！

車体後部中心の小損傷事故で入庫した車両のリアバンパーを外すと、写真矢印部の通り過去の修理作業が不適当で溶接不良、シール不良となっていた。お客様は中古車で購入したようで、トランク内に雨水が溜まっていることには気づいていたようだが、事故車であることは購入時に説明が無かったとの事である。今回の事故が無ければ、不正修理についてお客様は知り得なかった。過去、修理作業した修理業者はリアバンパーで隠れてしまうことを利用して、いい加減な修理をしたものと推定される。










東日本大震災、新型コロナウイルス
“逆境をはねのけ進化を続ける”

トータルカーサービスで地域を守る！

組合員訪問

東北ブロック　福島支部　クルマのわかつき



若槻英加津社長

chapter.1
地域住民が集うショッピングセンターでの営業

福島県南相馬市原町区、常磐線原ノ町駅から車で3分程の場所にあるショッピングセンター内にクルマのわかつき6号店はあります。ショッピングセンター内には、スーパーマーケットや家電量販店、ユニクロやABCマーケットなどの衣料品店、大型薬局、ゲームセンターなどがあり、老若男女問わず地域住民が集まる好立地です。

同社はこの地の利を活かし、新車・中古車販売、車検、リース、ロードサービス、鈑金塗装、保険などワンストップサービスを確立することで地域住民の信頼を勝ち得ています。お客様の中には、クルマを同社に預け、買い物をしている間にオイル交換などの一般整備を依頼する人も少なくないと言います。

また、6号店から車で5分程離れた場所には、中破以上の鈑金塗装を行う設備が整った本店があり、立地に併せた効率的な配置を心掛けていることが印象的でした。





㊤6号店はショッピングセンター内に店舗を構える　㊦6号店は車販や一般整備、短時間車検、軽鈑金など一般顧客向けのサービスが中心

chapter.2
トータルカーサービスへの歩み

同社は、平成5年に現会長の若槻英夫氏が、兄の経営する若槻自動車から独立し「クルマのわかつき」を創立。最初は自宅敷地を利用した自動車の販売を主たる目的としてスタート。翌年には現在の本店に事業場を移転し、営業内容も自動車販売、修理、鈑金塗装と幅広く行うようになり、平成9年には指定工場を取得し、現在トータルカーサービスの骨格ができあがりました。

6号店は、ショッピングセンター設立以前の平成13年から、現在の駐車場入口付近に中古車センターを展開しており、立ち退きの条件としてショッピングセンター内での開店を申し出たところ承認されました。これにより、軽鈑金は6号店、中破以上は本店といった具合に作業内容にあわせた効率的な振り分けが可能になったと言います。

BSサミットへの加盟も6号店が設立された平成13年、株式会社ホシバンの前社長に誘われての入会だったといいます。加盟したことにより、鈑金塗装業界の最新の情報を入手できることと、そして横のつながりが出来たことで情報を共有できる点に価値を感じていると、BSサミット入会の意義について話されました。

今年度より福島支部長に就任した若槻英加津社長は「今まで以上に積極的に情報を得ることで地域のお客様により良いサービスを提供していきたい」と意欲を口にされました。



クルマのわかつき本店では中破以上の鈑金塗装などを行う

chapter.3
震災、原発、突如訪れた商圏の変化

南相馬市で事業を行う同社を語るのに避けて通れないのが東日本大震災であり福島第一原子力発電所。「ここから原発までは約22kmの距離です。当初30km以内は緊急避難準備地域にされていたので、店を閉めて避難していました」と若槻社長は当時を振り返ります。

約1ヶ月後、緊急避難準備地域が20km以内に縮小され、避難生活から店舗に戻ると多くのお客様が店舗の再開を待っていました。この時に感じたのが、“車は重要なライフライン”であること。避難をするにも、外気から身を守るためにも、車の重要性は高まったのだと言います。

一方で、これまでの商圏の南側半分は震災の影響で壊滅的な状況に陥りました。住民がいなくなり代わりに除染業者が大量に流入してきました。原発付近の整備工場は稼働していないので、必然的に業者の車輌の整備が増加。除染業者の中には実態が不明な会社もあり、業者の与信管理など、これまではない業務に時間を割かれ、現場は大変戸惑ったと言います。震災を経験し、復興に苦労した若槻社長は、「ようやく復興も進み、あらためて地域のお客様の期待に応えられることの喜びを感じています」と話されました。



トータルカーライフサポートを掲げ、地域住民の生活を守る


ボディアライメント計測器やフレーム修正機など、次世代自動車修理に欠かせない設備が揃う



chapter.4
世代交代と経営者としての覚悟

今回お話を伺った若槻英加津社長は、今年1月に現会長であるお父様より代替わりを果たしました。着任早々のコロナウイルス騒動で、一時期は大幅に入庫が減ったそうですが、若槻社長はこの期間を利用してガラス施工の内製化に踏み切る大胆な戦略をとりました。

4月に施行された特定整備認証制度への対応という側面もありますが、復興が進み復興支援道路が開通したことや、工事業者が落としていく砂利などの影響で、この地域では飛び石のガラス破損のケースが多く、作業効率を上げるために重要な作業であることも内製化を進めた大きな理由であると教えてくれました。

また、一般顧客との接点が多い同社では、LINEやYouTubeなど新しいツールにも積極的に取り組みユーザーの利便性を上げる努力をしております。先代のやり方を踏襲するだけでなく、若い経営者ならではの視点を持ちチャレンジを続ける姿勢に、経営者としての大きな覚悟を感じました。


待合室からピットを観察できる大型の窓を設置

Best Shop Bs-Summit BSサミット
日本の車体整備業界のリーディング組織
組合員募集中
これからの時代をともに勝ち抜いていく
志高きメンバーを募集しています。
BSサミットは、安心・安全な自動車社会の
実現に向けて進化し続けます。
入会方法はこちら
〈お問い合わせ先〉
BSサミット事業協同組合
〒104-0031 東京都中央区京橋 3-9-4 新京橋ビル 3 階
TEL.03-3538-2900 E-mail honbu@bs-summit.co.jp
http://www.bs-summit.jp